



教室で 七カいと 同期する。

受 講 案 内

2022

筑波大学 × 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)

- 総合科目(学士基盤科目) (科目番号1226151)
社会基礎学Ⅰ
- 総合科目(学士基盤科目-高年次向け-) (科目番号1426011)
社会基礎学Ⅱ
- 大学院共通科目 (科目番号0A00402)
テクノロジーとグローバルで拓く未来
- 大学院共通科目 (科目番号0A00401)
多極化する世界とこれからの日本





この授業

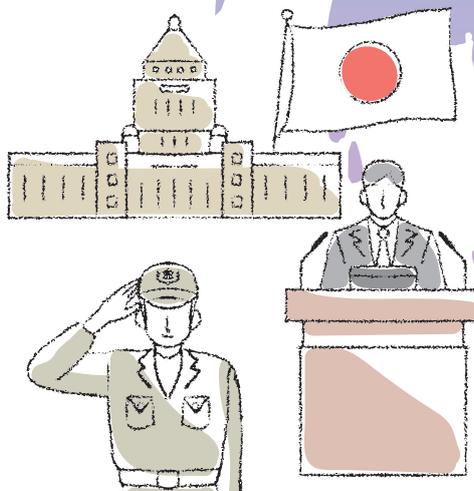
16つの

「グローバル化と地域の日本のあり方」と同期する

我が国は課題解決先進国といわれます。その課題とは、たとえば公害に対する環境保全や省エネルギー化、少子高齢化などへの取組みを挙げることができます。これら多くの課題のなかに、世界に先駆けて直面して取り組み、解決をみてきたものも少なくありません。またそれらの取組みには、ローカルな地域での取組みが、国としての取組みより活発な場合もあります。ローカルな取組みが世界に輸出できる、という考え方も現実味があります。そのようなGlobalとLocalな関係に光をあてて理解を深めましょう。

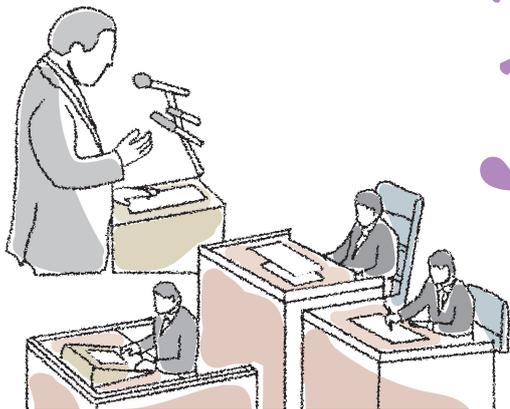
2 「政治・政策」と同期する

平成27年(2015年)に公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。すなわち、大学に入った皆さんにはすべて選挙権があることとなります。しかし、選挙で選ばれた国会議員、地方自治体の長や議員はどのような役割を持つのか、そもそも政策の決定過程はどのようなものなのか、知っているようでわかっていないことも多いでしょう。そのような政治と政策の関係に光をあてて理解を深めましょう。



3 「安全保障・憲法」と同期する

我々の普段の生活が守られ、生きて行けることは大事なことです。しかし、地球規模で見れば、国家間の争いや緊張が絶えない時世でもあります。我が国の第二次世界大戦での敗戦から、日本国憲法第9条に定めた戦争の放棄、世界屈指の経済大国に成長する過程などにおいて、国家間の安全保障に関する現代的な側面と現状を知ることはとても重要です。さらに昨今は、経済安全保障ということもいわれるようになりました。このような安全保障・憲法についての諸課題に光をあてて理解を深めましょう。



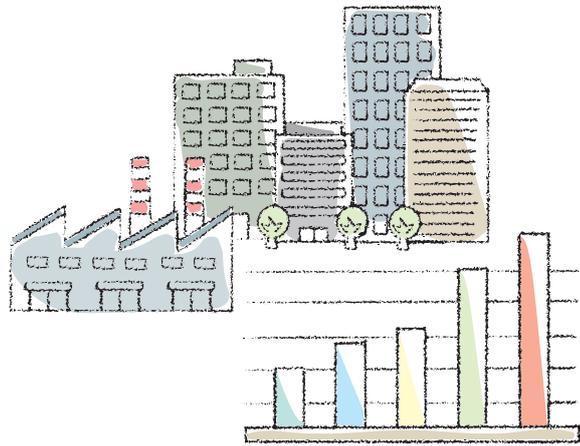
「同期する」とは？

「同期する」の意味は、期を同じくする、でしょう。「期」には、とき、定められた日時、示した6つのセカイも、年月を経るごとに変化し、日々動いているものです。ここでは、

で広がる

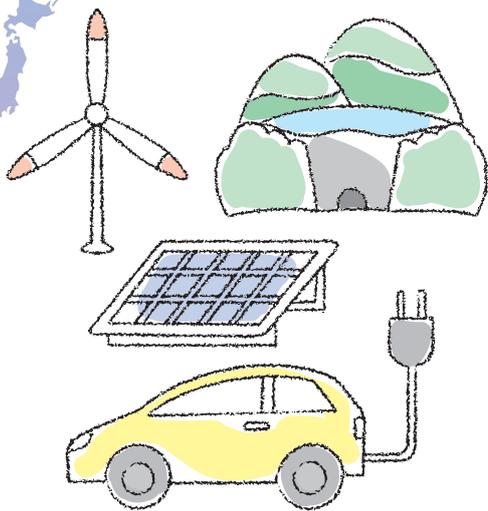
セカイ

4



「経済・産業」と同期する

我が国の経済は、1990年代のバブル崩壊前の勢いを未だに取り戻しておらず、失われた30年ともいわれています。米国はこの30年で堅調な成長を続けていますが、我が国はそのような成長ができなかった、という問題が指摘されています。世界経済の変化と日本の産業のあり方、世界の潮流にも目を向ける必要があります。経済の発展と産業の育成、企業のあり方についてどのように考えればよいのか、これらの諸問題に光をあてて理解を深めましょう。



「環境・資源・エネルギー」と同期する

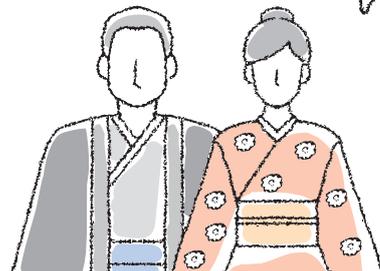
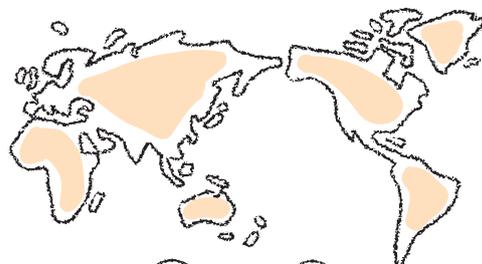
化石燃料の大量消費による地球温暖化は、地球規模課題の代表例です。これ以上の温暖化を防止するために、化石燃料の消費を可能な限り控える脱炭素、そして再生可能エネルギーへの転換が急速に進んでいます。エネルギー資源の確保や環境保全の問題は、GlobalにもLocalにも、国家と国家の間にも、そして経済や産業の面にも、縦に横に複雑に絡むものです。そのような環境・資源・エネルギーに関連する諸問題に光をあてて理解を深めましょう。

5

6

「世界/アジア」と同期する

国内における課題も多い中で、我が国は遠い国との国際協力も推進しています。このような国際協力の実践は、どのような思想・理念で行われているのかを知ることにも重要です。実は、グローバルと地域の日本、安全保障など、これまでに出てきた観点とも絡みあいます。中国の台頭と東南アジア諸国の対応、そして我が国との関係、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交もまた諸問題に直面しています。これらに光をあてて理解を深めましょう。



などの意味がありますから、「同期する」とは総じて相手のテンポや動きに合わせる、という意味を伝えるでしょう。ここにそれらに常に関心と興味を持ち続け、観察と理解を続けよう、という意味で「同期する」という言葉を当ててみました。

専門以外の
視野が広がった

実際の最前線で
活躍する方々の話は、
机上の勉強では
得られない

知的好奇心を
刺激された

答えを知るのではなく
トップリーダーと
共に考える場

Student's Voice 授業に出席した

他の講義では得られない
考え方を必ず学ぶことができる

情報学群 情報科学類

鈴木 貴裕 [Suzuki Takahiro]

殆どの大学の授業は、研究者、すなわち学
界出身の講師が行う。一方で、社会基礎学は、
産業界や官界出身の講師が登場するため、新
しい考え方を学ぶことができるのではないかと
思い、受講を決めた。

社会の最前線で活躍する講師の貴重な話を
聞けることはもちろんであるが、この講義の
最大の魅力は、講師と議論できる時間が長く、
また、授業後に質問できることにある。やる
気を持って講義に臨めば他の講義では得られ
ない考え方を必ず学ぶことができる。

私が特に印象に残っているのは、大学で都
市工学を学んだのち不動産会社に就職した講
師の話である。大学で学んだことをどのように
に実社会に応用するかの例として、とても参
考になった。

リーダーたちの知見に触れ、
社会との向き合い方について
深く考えられる

理工学群 工学システム学類

小山 颯大 [Koyama Souta]

日本経済を支える官・民のグローバルリー
ダー達が、現在の社会をどう見て、何を感
じるのか知るために受講しました。この授業
から、世界規模の複雑な課題を整理し、そ
の上で日本がどう課題解決に貢献していける
かを学びました。さらに、現役で先頭に立
つリーダーの様々な経験と視点を知ることで
、自分が社会に対して何を感じているかを
明確化し、どう向き合うべきかを深く考
える貴重な機会になったと思います。また
授業後は、講師の方々とは直接対話でき
るため、授業では伝わりきらない細かな
知見に触れることができとても刺激的
です。今まで聞き流していたニュースにつ
いて、少し立ち止まって考えられるよう
になる講義だと思っています。

異なる視座から
ビジネスを考える

理工情報生命学術院 生命地球科学研究群
生物資源科学学位プログラム

坂本 恵華 [Sakamoto Keika]

この激動の時代に、日本を代表するリー
ディングカンパニーではどのような展望を持
ちビジネスをされているかに興味があり本
講義を受講しました。講義の中では感染症
の流行、気候変動問題、デジタル化、地政
学など多様な観点から世界の潮流について
学び、商社のビジネスモデルについて考
察しました。経済の動向を視座の高いビ
ジネスパーソンから学び、ディスカッ
ションできる非常に貴重な機会です。も
のごとの事実から、問題の本質がどこに
あるのか、何を解決すべきなのかを思
考するとともに、多様なバックグラウン
ドをもつ他の受講生と意見を交換するこ
とで自らの視野を広げられ、本当に有意
義な経験となりました。

ニュースのその奥の世界を
知ることが出来る

人間学群 教育学類

高木 里緒 [Takagi Rio]

私は「社会基礎学」という表題に惹かれ、
本講義を受講することにしました。普段の
ニュースで話題に上る問題の「奥」に
いる方々の話を聞き、さらに質問もさ
せていただける機会は滅多にないと思
います。本講義を受講し、ほんの少
数ですが社会の仕組みが理解できた
とともに、自分が将来取り組んでみ
たい課題も見つかりました。学群に
とらわれず学際的に何かを学びたい
、と思っている人には特に得るもの
が大きい講義ですので、是非この機
会を逃さないでほしいと思います。



自分自身の考えを
精緻化できる講義

社会国際学群 国際総合学類

木下 周平 [Kinoshita Shuhei]

普段お聞きする機会のない方々からのお話
を聞くことで自分自身の知見を深め、今後
の大学生活や、その先の社会人としての活
動に活かしたく、この講義を受講しまし
た。元々、社会基礎学Iの方も受講して
いましたが、全体を通して、講師が話
したことをただインプットするだけで
なく、「そこから私はこう考える」と自
分の考えを持つことが非常に重要であ
ると感じます。社会基礎学は、講師の
方による濃密な講義と質疑応答の時
間が設けられているので、自分の考
えをより精緻化できると感じました。
多種多様な情報が混在し、VUCA時
代と言われている世の中において、
社会基礎学で得た知見は、社会のあ
らゆる場面で役に立つと思います。

持続可能な新市場形成を
見据えて私たちにできることを
考える講義

理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
社会工学学位プログラム

有澤 瑠利子 [Arisawa Ruriko]

私は社会人学生で、職務でスマートシ
ティの実現を目指しており、先端技術
を社会の中に取り入れ、いかに経済と
環境を両立した持続可能なまちづく
りができるかに関心がありました。講
義ではモビリティを題材に、モビ
リティの共有型市場の形成や、それ
に伴い実現される社会計測とサービ
スについて、ディスカッションを行
いました。国内外の具体事例を取り
上げながら、日本における市場の
あり方について考えを共有し、様
々な分野や立場からの視点に触れ
ることができたことで、知の幅を
広げることができました。環境、
経済、地域課題など様々な個別背
景のもとで、持続可能な未来図
を見据え、その実現に貢献する
力を養える貴重な機会であると思
います。

学生の感想

今まで遠い世界のことと思っていたことは意外に身近だ

トップリーダーの思考のプロセスを学べた

私たち世代に向けた授業

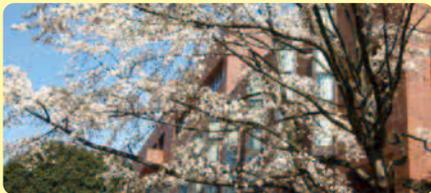
講師と議論できる！

将来に必ず役立つ講義

生命環境学群 生物学類

佐藤 綾香 [Sato Ayaka]

世界で活躍する人たちの貴重なお話を聞けるということで、この講義を受講しようと思いました。この講義では、自動運転技術や都市デザイン、経営についてなど、幅広い分野のお話を聞くことができます。また、グローバル化社会の講義では、国際協力をするうえで、グローバル人材になるために、私たちに求められていることを学ぶことができます。どの講義も新鮮で、自分の将来に直接的に役立つ講義だと思います。自分の将来が見えていないという人は自分の将来について見つめる良い機会になると思うので、ぜひこの講義を受講してみてください。



様々な背景を持つ学生が集まり意見を交わす、大学ならではの貴重な機会

医学群 看護学類

泉 瑛子 [Izumi Eiko]

私の専門は看護ですが、人間を相手にする仕事として社会の基礎を知りたいと思い受講しました。毎回とも最先端を切り開いてきた講師の方が、各事業の根本にある考え方と方向性について講義して下さいます。私は一度社会経験を経た編入生ですが、これまでの人生で会うことのないような話題についても知ることができ、パネルディスカッションでは現代の学生が感じる素直な疑問質問に重ねて、世代を超えて考えることに楽しさを感じました。各地から様々な背景を持つ学生が集まり意見を交わすことができるのは大学ならではの貴重な機会です。自分が生きていく社会について、広く深い視点を持ち、主体的に考えるきっかけになると思います。

対話形式で技術の未来社会への導入に向けたロードマップを学習できる

理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生命農学学位プログラム

山崎 俊介 [Yamazaki Shunsuke]

皆さんはモビリティ・イノベーション、スマートシティ、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムなどの言葉を聞いたことがあるでしょうか？教鞭を取られた高原先生はトヨタ自動車社員時代の海外での豊富な事業化経験をもとに、新技術をいかに社会実装していくのか、そのための方法論について詳細を講義くださいました。スマートシティは今後の日本社会からBackcastingした場合必要なシステムであり、導入のため民間企業だけでなく、自治体、さらに地元大学の三者が一体となり取り組む必要があることを事例を元に学ぶことができました。レポートを題材にして対話形式で議論を深めてくれるため、リターンの大きい時間でした。

遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感

理工学群 社会学類

菅野 恭花 [Kanno Kyoka]

本講義の受講を決めた主な理由は、普段ではかかわることのできない講師陣が私たちの世代に向けた授業をしてくださることが魅力的に感じたからです。私は「都市」について興味があったので本講義で、省庁、不動産業界、また他分野の企業からの意見を聞いたことは非常に貴重でした。自主的に調べる際はどうしてもその業界にのみ注目してしまうので視野を広げるいい機会になったと思います。講義内容は少し難しいものもありましたが、講師の方々が自身の体験談などを交えて説明してくださり、世界で起きている出来事や問題など、今まで遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感しました。

視野と視座の広がる大変質の高い講義

人文・文化学群 日本語・日本文化学類

大沼 佑実子 [Ohnuma Yumiko]

この講義を受けたきっかけは、今後社会に出ていくうえで必要な教養を身につけていきたいと思ったことと、実際に社会の最前線で活躍されている先生方に魅力をもったからです。「グローバル化」と「地方の活性化」…このワードはよく耳にする言葉でありながら、改めて問いかけられると本質を全く理解していないことに気づきました。この講義は教室にいながらまさに世界とつながる、大変意義のあるものでした。特に私はインフラについて専門的な知識がありませんでしたが、まちづくりという観点から自身の専門領域へと複眼的に捉えられるようになりました。

世界を相手にビジネスを行っている方々が今の社会をどのような視点で見ているのかを知ることができる

理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム

西岡 利隆 [Nishioka Toshitaka]

私は世界を相手にビジネスを行っている方々の考え方を学び、議論を交わしてみたいと考え本講義を受講しました。講義では世の情勢について学び、ディスカッションを行うだけでなく、今後どのようなビジネスを行くべきかに関しても多くの知見を得ることができ、非常に刺激的なものでした。特にビジネスを生み出す際の「Forecasting」「Backcasting」という考え方には感銘を受けました。常に変化する世界の情勢に対してその本質を見極め、自分がどのように行動するのかを問う本講義の内容は、進路や就職先に関係なく、学生にとって貴重な機会であると思います。

■ 総合科目(学士基礎科目) 社会基礎学Ⅰを受講した学生の感想

■ 総合科目(学士基礎科目) 社会基礎学Ⅱを受講した学生の感想

■ 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースを受講した学生の感想

Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.



この講義について

この講義は、上の見出し：「地球規模で考え、地域で行動する。地域で考え、地球規模で行動する。(Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.)」というフレーズがぴったりの講義です。このフレーズを見てもどこか現実感がない、そもそも地球規模の視点でものを考えると、地域で輝く活動するとか言われてもピンとこなかったり、とっつきにくさを感じるかもしれません。でも、すこし前向きに、まずはその実践例を知り、それをもとに自分ならどうするか、どうしたいか、を考えてみませんか？

まず、学群生向けに総合科目(学士基盤科目)として開講される「社会基礎学I,II」は、その実践例を横断的に知るにはまさにうってつけです。国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組みなど様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組みやその実践に至るプロセスをご紹介します。さらに、受講生と講師の方々との質疑応答による議論に重きをおくのも本講義の特長です。その議論によって受講生のみなさんそれぞれの考えが沸々湧くようになればよいですね。この講義に通底するキーワードは Glocal です。Global と Local をつないだ造語ですが、上の見出しを一言でいうような単語ですね。講師の方々から紹介いただく内容は、みな、この Glocal な考え方に紐づけることができます。そして、紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。

これから社会に出て、自分自身の立場を築いていくためには、自分自身の論を言葉で表現しなくてはなりません。その言葉を磨くためには、人と議論を重ねることがとても大事です。そのような濃密な議論ができるように、大学院生向けに大学院共通科目として、アドバンスト・ディスカッションコースと銘打ち、少人数のゼミ形式の講義を用意しました。通底する意識は学群生向けの講義と同様ですが、テクノロジーの活用とGlocalな思想と行動様式、多極化した世界とこれからの日本に焦点をあて、議論を深めていきます。

筑波大学 × JAPIC

この冊子に掲載されている講義は、すべて、筑波大学と日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づいて開設しています。この目的は、本学とJAPICとが相互に連携・協力して、世界で活躍できるグローバル人材の育成を推進し、この国の学術教育研究の振興・発展と人材育成に寄与することです。この協定は、2010年10月に締結され、年度ごとに更新されながら現在に至っています。今現在、産業界・官界で活躍し、世界に挑戦するトップリーダーの方々の派遣も、この協定によるJAPICの指名および本学との協議に基づくものです。トップリーダーからのリアルな実体験を交えての話をお聴きし、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」など、様々な話題について掘り下げていきましょう。これらの講義で扱われている題材はあまり自分に関わりなさそう...と思った学生の皆さん! 講義の終盤には、自分の専門分野と地球規模な諸問題・社会との関わりに気付いてくることでしょう。



JAPIC について



JAPIC 会長
進藤 孝生

[Shindo Kosei]

日本製鉄(株) 代表取締役会長

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council : JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種225社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

● 左上の見出しについて

この見出しは、平成15年版 環境白書の第2章 冒頭部分から引用しました^[1]。実は、このフレーズは、この白書が初出なのではなく、以前から様々な識者が使っているようです。この白書では、地球環境の保全と地域の環境との関係を個別にせず、一連の問題として取り組むことの訴えとしてこのフレーズを示していました。地球規模の課題はとて大きく感じられ、身近にとらえることは難しくても、自分が住む地域のことであれば身近にとらえることもできそうです。大きな地球の問題は地域の問題として活動してみよう、そして、地域の問題を考えることは地球規模の課題として活動してみよう、とらえてはいかがでしょうか? さらに地球規模の問題を、単に環境問題だけに絞るのではなく、政治・経済・社会・国際関係など、様々分野に広く複雑に絡み合うことにも考えをつなげてみましょう。

[1] <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h15/index.html>

春B 1226151

社会基礎学Ⅰ — 「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回

5/28 (土) 14:00-17:00

導入講義Ⅰ

筑波大学におけるグローバル人材育成方針

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

導入講義Ⅱ

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]



写真は昨年度までの授業風景です

講義
概要

グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

パネルディスカッション

第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

パネリスト

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

パネリスト

21世紀政策研究所 事務局長

太田 誠 [Ohta Makoto]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

第2回

6/4 (土) 13:30-16:30

地域資本を活用した地域経営

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営戦略室
チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

講義
概要

人口減少・少子高齢化が進む地方では、地域創生の切り札のひとつになっている。自然資本を中心とした地域の資源を「元手」に、地域を個人・企業・自治体という個で見るのではなく一つの家計と考え、地域を「経営」することが重要である。地域の現状と諸課題、都市と地方の新しい関係などを紹介しながら、皆さんと共に持続可能な地域経営について考えたい。

グローバル化における地域の活性化

株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 次長

坂本 広顕 [Sakamoto Hiroaki]

講義
概要

国境を越えてヒト・モノ・カネ・情報の行きかう「グローバル化」の大波の中、わが国は人口減少と高齢化の課題を抱え、地域においては過疎化とも相まって喫緊の対応が望まれている。こうした逆境においても、地域を一層活性化すべく、知恵を用いて取り組まれている様々な実例を紹介し、「Think globally, act locally」の観点から、受講生が自身の将来を描く一助となるような講義としたい。

貢献できる輝く人材の育成

第3回

6/11 (土) 13:30-16:30

グローバル化と戦争

共同通信社 常務理事・編集局長

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

講義
概要

20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。「反グローバル主義」を掲げたトランプ前大統領の下で進んだ「米中新冷戦」が本格戦争に発展する恐れはあるのか。戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。

国際協力の考え方と グローバル人材に求められること

(独)国際協力機構(JICA) 特命審議役

河西 裕之 [Kawanishi Hiroyuki]

講義
概要

日本国内における課題も多々ある中、なぜ日本は遠い国への国際協力を推進しているのか、そして、どのような思想・理念で国際協力を行うのか。また、国際協力の実践を通じて、グローバル人材として求められる要素はどのようなものが重要と考えられるか。こういった点について具体的な事例も紹介しつつ考える。

第4回

6/18 (土) 13:30-16:30

都市開発とエリアマネジメントの実践 ～民間デベロッパーの取組み～

三井不動産株式会社 開発企画部環境創造グループ長
兼 三井不動産エンジニアリング株式会社 取締役開発技術本部長

雨宮 克也 [Amemiya Katsuya]

講義
概要

東京都心部では地域価値向上のための「エリアマネジメント」が積極的に展開されている。これらの活動にはそのエリアでの都市開発を主導する民間デベロッパーが中心的な役割を担い、地域社会と連携しながら進めている場合が多くみられる。今、エリアマネジメントに何が求められ、今後どのように展開されていくのか。民間デベロッパーの取組みの視点から、これからの都市開発とエリアマネジメントの展望と課題について皆で考えたい。

モビリティ革命とMaaS (マース)

一般財団法人 計量計画研究所 理事
兼 研究本部企画戦略部長

牧村 和彦 [Makimura Kazuhiko]

講義
概要

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service (マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の移動サービスがMaaSです。本講義では、MaaSが私たちの都市やライフスタイル、まちづくりにもどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

第5回

6/25 (土) 13:30-16:30

国際経済と総合商社の活動

丸紅株式会社 経済研究所 企画・渉外チーム長

重吉 玄德 [Shigeyoshi Harunori]

講義
概要

刻々と変わる国際経済の荒波の中で、総合商社がどのようにビジネスを行ってきたのか解説します。MBAで学習する内容もわかりやすく紹介し、総合商社を通して社会人として活躍するために必要な知識に触れていきます。

経済産業政策の新機軸 ～新たな産業政策への挑戦～

経済産業省 中小企業庁経営支援部長

佐々木 啓介 [Sasaki Keisuke]

講義
概要

直近のコロナ禍の状況を踏まえ、国内外のマクロ経済動向を分析しつつ、新たな成長に向けた経済構造改革を推進するための最新政策を説明。特に、コロナ対応の政策パッケージ、新しい資本主義として成長と分配の実現に向けた政策、経済安全保障、中小企業政策等にフォーカスして、最新の経済産業政策を解説する。

秋AB 1426011

社会基礎学II — 「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回

10/8 (土) 13:30-16:30

導入講義

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

パネルディスカッション 第1部

グローバル化とは何か？ グローバル化の中で日本は？

パネルディスカッション 第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか？

パネリスト

(株)日建設計 執行役員 新領域開拓部門
イノベーションデザイングループ プリンシパル

石川 貴之 [Ishikawa Takayuki]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

パネリスト

(株)三菱総合研究所 主席研究部長/
プラチナ構想ネットワーク 事務局長

平石 和昭 [Hiraishi Kazuaki]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

写真は昨年度までの授業風景です



講義
概要

グローバル化とは何か？日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か？産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

第2回

10/15 (土) 13:30-16:30

経済報道と最近のトピックス

読売新聞大阪本社 経済部長

中村 宏之 [Nakamura Hiroyuki]

講義
概要

経済のニュースは、日常生活での様々な活動や、将来の就職先を選ぶにあたって重要であるにも関わらず、苦手意識を持つ学生さんが多いようです。その理由はシンプルです。ごく基本的な知識が不足しているために、経済ニュースを心理的に遠くしているからです。本講義では、直近の国内外の経済ニュースのトピックをとりあげて、基本的な内容を解説しつつ、日本や世界にもたらす意味を考えたいと思います。

企業経営の現状・課題と戦略

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

十河 英史 [Sogoh Eiji]

講義
概要

本講義では、日本製鉄の過去・未来の取り組みを通じて、日本のものづくり産業が目指す成長戦略について考察する。／①「鉄」という素材の多様な特性・魅力／②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか／③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

貢献できる輝く人材の育成

第3回

11/12 (土) 13:30-16:30

北東アジア情勢と日本外交

外務省 アジア大洋州局長

船越 健裕 [Funakoshi Takehiro]

講義
概要

日本をとりまく安全保障環境の中で、日米同盟、日本の安全保障政策、そして対中政策、対朝鮮半島政策をどう考えるか。

未来の国土づくりを担う皆さんへ

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

講義
概要

我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況と対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。

第4回

11/26 (土) 13:30-16:30

日本の安全保障環境と防衛政策

防衛装備庁長官

鈴木 敦夫 [Suzuki Atsuo]

講義
概要

わが国を取り巻く安全保障環境は急激に不確実性を増し、防衛省・自衛隊が担う役割や活動の場面も宇宙・サイバー・電磁波まで広がりました。北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、中国による一方的な現状変更の試みの執拗な継続、新型コロナウイルス感染症に対する活動、大規模な自然災害に対する災害派遣活動、米国をはじめとする諸外国との間における防衛協力・交流など、時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

転換期の日本の通商政策

経済産業省 通商政策局長

松尾 剛彦 [Matsuo Takehiko]

講義
概要

近年、米中の貿易摩擦に代表されるように国際経済は多極化を強め、WTO(国際貿易機関)を中核とするルール・ベースの貿易システムは機能不全に陥りつつある。一方、通商政策には、新たに、経済安全保障や地球温暖化問題・人権問題等の普遍的な価値の実現に向けた貢献が求められて来ている。こうした課題に我が国としてどのように対処し、我が国産業がグローバルな事業展開を実現するための環境を整備すべきか議論する。

第5回

12/3 (土) 13:30-16:30

パネルディスカッション

我が国が直面する構造改革と社会資本整備

パネリスト

国土交通省 不動産・建設経済局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

パネリスト

株式会社みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

遠藤 宏 [Endo Hiroshi]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授 教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

春BC 0A00402

次世代モビリティのマーケットデザインと計算科学

世話教員 ● 坪内 孝司(教学デザイン室長、システム情報系・教授)他

未来を拓く次世代モビリティとエマージングテクノロジーの社会実装をテーマに市場設計と計算科学の果たす役割を講義する。最新動向を共有の上ディスカッション。

担当教員

内閣府 審議官(科学技術・イノベーション推進事務局)
筑波大学特命教授/慶應義塾大学特別招聘教授

高原 勇 [Takahara Isamu]

キーワード

次世代モビリティ、スマートシティ、スマートローカル、Society5.0、カーボンニュートラル、市場デザイン、量子技術、エマージングテクノロジー、サーキュラーエコノミー、地域社会

第1回

6/8 (水) 13:00~

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

●モビリティイノベーションの社会応用

次世代モビリティの技術革新について情報共有をしたうえで、マーケットデザインと計算科学について講義、グループワークによる次世代モビリティと未来社会像を描く演習を実施。

第2回

6/22 (水) 13:00~

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

●スマートシティとエマージングテクノロジー

政府のスマートシティに係る政策動向について情報共有をしたうえで、グループワークによる次世代に引き継ぐ基盤となるまちづくりと地域づくりとしてエマージングテクノロジーの活用とスマートシティ像を描く演習を実施。

第3回

7/6 (水) 13:00~

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

●次世代モビリティのマーケットデザインと計算科学によるデザインと未来社会像

第1回、第2回の講義を通して検討した内容を前提に、次世代モビリティ、スマートシティによる市場デザインと未来社会像についてグループワーク、パネルディスカッションを実施。パネルには最前線で活躍する有識者の参加を予定。



写真は昨年度までの授業風景です

秋AB 0A00401

多極化する世界とこれからの日本

世話教員 ● 坪内 孝司(教学デザイン室長、システム情報系・教授)他

混迷の度を深める世界の中で日本は？ 難局に立ち向かう皆さんの決心は？

担当教員

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

キーワード

過去を知り、現在を正しく理解して、未来を予測する力を養う契機とする。
世界の潮流に対する知見を深め、自分の考えを発信することにチャレンジしよう。

第1回

10/19 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- アイスブレイク：自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話
- 講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動（第一部）」と全員参加による議論

第2回

11/16 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動（第二部）」と全員参加による議論

パネルディスカッション テーマ① グローバルビジネスにおける日本企業の競争力の変遷と課題

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 リテール・コンシューマーサービス本部長

村井 宏人 [Murai Hiroto]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

第3回

12/7 (水) 13:00-17:30 双日(株) 本社

パネルディスカッション テーマ② 商社におけるリスクマネジメントの変遷

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 広報、リスク管理担当本部長

河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

パネルディスカッション テーマ③ これからの商社の人材戦略

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事、総務・IT業務担当本部長

橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

- ラップアップ・セッション（ゼミ全体の振り返り）

(17:30 ~ 双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定)

教 員 の 声

知的でエキサイティングな土曜の午後

みなさん、知的でエキサイティングな土曜の午後をこの「社会基礎学」の受講ですごしてみませんか？この科目名からは、きっと社会系の講義だろう、自分の専門分野とは直接関係ないし…という印象をもつかもかもしれません。でも、講義に出席してみたら、その印象は徐々に変わり、自分の専門分野の社会を通してのかかわりがおぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づくと思います。

これから各自が専門とすることになる学問分野は、およそ地球上にある物質や環境、人や生物の営みと関連します。特に人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるのは、またとない機会です。普段、新聞やテレビのニュースで見聞きする問題に日々接しておられる方々からの直接に聞けるのです。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意されています。積極的に自分の意見を表明して議論に参加してみませんか？教室でお会いしましょう！



教学デザイン室長
システム情報系教授

坪内 孝司

[Tsubouchi Takashi]



2021年度大学院共通科目部会長
図書館情報メディア系教授

逸村 裕

[Itsumura Hiroshi]

総合智教育で人間力の育成を

筑波大学の教育の特徴の一つとして学士課程から大学院課程にわたる「総合智教育」があります。これは教養と専門をバランスよく学び、逞しい人間力を育成しようとするものです。高いコミュニケーション能力や優れた倫理感、グローバル化が進み一方ローカルでもある社会の中であって本質を考える力、キャリアについて考える力などを修得するために、大学院共通科目を開設しています。アドバンスト・ディスカッションコースは、企業トップとして世界をリードしてきた講師が、現実とどう向き合い、課題にどう取り組み、将来をどう見据えてきたか、いつどのような決断をしてきたかなど、知識とスキルの使い方を実践的に身につけられる講義です。大学院共通科目、特にアドバンスト・ディスカッションコースでリーダーの思考プロセスを学んでください。

「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる人材とは？

日本プロジェクト産業協議会 常務理事
筑波大学客員教授

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

グローバル化とは、ICT技術の進歩により“人・モノ・カネ”が国や地域を越えて盛んに行き来することです。「結びつきが強くなること」でpositiveな結果が生まれる一方、「嫌でも距離が縮まること」でnegativeな結果も生まれるという両刃です。こうしたグローバル化の中で皆さんはどのように“社会”に貢献をするべきでしょうか。“社会”といっても「世界」「日本」「関東」「茨城県」「つくば市」「町内」「皆さんの親族、家族」と様々ですが、皆さんはその社会の一員として、positiveな結果をmaxに、negativeな結果をminimumにするのが役目であることをしっかり認識してください。皆さんが貢献する様々な社会は、必ず世界に通じているのです。

地方の活性化とは、地方が元気になる方策のことです。元気の源は人であり、人が集まれば活気が生まれ、活気が生まれれば産業も栄え、その結果、人の収入も増え、生活が豊かになっていきます。しかし日本の人口が減少するとすれば、状況は悪化の一途をたどります。こうした中で皆さんが貢献すべきは地方社会です。各地方には必ず“素晴らしい魅力”があります。この地方の魅力は、日本全国で、更には世界で認識されているでしょうか？

この講義では様々な分野で実際に社会貢献されている講師をお招きしています。どんな社会貢献をどんな分野でしたいか/すべきか？ そのために学生時代に何をすべきか？この講義がそれを考える一助となればと思います。

筑波大学教員 システム情報系教授
 教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より教学デザイン室長。本講義もこの室長関連の仕事で関与している。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいろいろ

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
 常務理事

三浦 潔司 [Miura Kiyoshi]

新日鐵(現 日本製鉄)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

早稲田大学在学中、米コロンビア大学に短期留学、多業種のアルバイトを経験し、政策担当秘書資格試験に合格。卒業後、石破茂事務所勤務、在職ついに25年。国務大臣防衛庁長官秘書官拝命中、公務海外出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(現在退職)。趣味は読書(特に推理小説)、釣り、海外ドラマ、マンガやアニメ。ゲーム、庭いじり、ドライブを少々。

21世紀政策研究所 事務局長

太田 誠 [Ohta Makoto]

博士(学術/東北大学) 政治学修士(ソウル大学)。1986年経団連入局。産業政策本部次長、国際協力本部次長(中国・韓国・ロシア担当)、ソウル駐在を経て2012年より現職。人文科学の政策への反映を研究。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。編著書『五次元視角からの東アジア：空間・時間・人間』(成澤勝博士古稀祝賀記念論集刊行委員会編、銀河書籍、2018年)等

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営戦略室
 チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、環境・エネルギー分野の部署にて環境関連計画・地球温暖化対策・生物多様性分野のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画、市場創出に関わる部署に異動、地域創生やプロジェクト化支援等に関わり、2018年より本社に異動、現所属。出身は岡山県。趣味は仕事と子育て(3人の息子を追い回す)。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 次長

坂本 広顕 [Sakamoto Hiroaki]

日本政策投資銀行にて、政策企画部、人事部、経営企画部、財務部などを経て、2016年より地域企画部所属。地域資源(古民家、食、アニメ聖地等)やスポーツを活かしたまちづくり、交流人口の拡大に関する調査に従事。JAPIC出向を経て2021年4月より森林を活かした地域振興等を担当。主著に「フィンテックと地方創生」、「AIと地方創生」、「コンテンツと地域活性化」等。

共同通信社 常務理事・編集局長

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

1985年共同通信社入社。神戸支局、横浜支局で主に事件取材。95年から海外特派員。ナイロビ支局でアフリカの紛争、飢餓、難民問題などを、バンコク支局でアジア地域統合、ミャンマー民主化などを、イスラマバード支局で対テロ戦争などを、ワシントン支局で米大統領選、イラク戦争などをそれぞれ取材。外信部長などを経て2021年から現職。東京都出身。趣味はテニス、読書。

(独)国際協力機構(JICA) 特命審議役

河西 裕之 [Kawanishi Hiroyuki]

海外経済協力基金(JICA前身)に就職後、サブサハラアフリカ、インドネシア、中央アジア・コーカサス、南アジア、運輸・交通、エネルギー、産業開発、ガバナンス等の地域・分野における政府開発援助(ODA)を推進。資産・負債管理や人事等も経験。2020年12月からインド高速鉄道特命担当審議役。在外経験はインドネシア、イギリス、リベリアと約10年。本学国際関係学類卒。

三井不動産株式会社 開発企画部環境創造グループ長
 兼 三井不動産エンジニアリング株式会社 取締役開発技術本部長

雨宮 克也 [Amemiya Katsuya]

1987年4月、三井不動産(株)入社。長年、プロジェクトの企画、事業推進に従事してきた。主な担当に、ららぽーと横浜や東京ミッドタウンなど。また、鑑定企画室、スマートシティ企画推進部、三井不動産レジデンシャル(株)、三井不動産エンジニアリング(株)を兼務歴任し、都市計画や基盤整備の分野に幅広く関わっている。趣味は街歩き、読書等。慶大経卒、東大院修了、博士(工学)。

一般財団法人 計量計画研究所 理事
 兼 研究本部企画戦略部長

牧村 和彦 [Makimura Kazuhiko]

1990年一般財団法人計量計画研究所入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事、将来のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナーとして活動。代表的な著書に「MaaSが都市を変える(学芸出版)」、「MaaS ~モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「Beyond MaaS(日経BP、共著)」等多数。

登壇される講師のプロフィール一覧

丸紅株式会社 経済研究所 企画・渉外チーム長

重吉 玄德 [Shigeyoshi Harunori]

1997年、丸紅株式会社入社。エネルギー部門を経てペンシルバニア大学ウォートン校でMBA取得。その後、金融、人事、広報部を経て現職。2014～2016年 経団連 経済政策本部に出向。東京商工会議所参与。青山学院大学経済学部非常勤講師、神戸大学経済学部非常勤講師。

経済産業省 中小企業庁経営支援部長

佐々木 啓介 [Sasaki Keisuke]

1993年通商産業省入省。経済産業省産業資金課長 兼 新規産業室長、商務情報政策局サービス政策課長、大臣官房政策審議室室長、経済産業政策局産業創造課長、大臣官房会計課長などを経て、2022年7月より中小企業庁経営支援部長を担当。

(株)日建設計 執行役員 新領域開拓部門
イノベーションデザイングループ プリンシパル

石川 貴之 [Ishikawa Takayuki]

1987年日建設計入社。京セラドーム周辺地区、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年に(株)日建設計総合研究所に転籍し、東アジアやロシアでスマートシティなどの都市開発の案件組成支援を担当。2021年1月より現職。社会環境デザインに資するイノベーション推進を担当する。山口県出身。コロナ禍の在宅ワークが続く中、体重増加回避に苦勞する日々。

(株)三菱総合研究所 主席研究部長/
プラチナ構想ネットワーク 事務局長

平石 和昭 [Hiraishi Kazuaki]

1984年東京大学工学部土木工学科卒業。同年株式会社三菱総合研究所に入社。地域開発、交通計画、天然ガスパイプライン計画、海外事業(経済協力など)、マクロ経済、データサイエンスの各分野業務を歴任。MRIリサーチアソシエイツ副社長を経て、現在はプラチナ構想ネットワーク事務局長。趣味はゴルフ、テニス、音楽鑑賞。博士(工学)、技術士(建設部門)。

読売新聞大阪本社 経済部長

中村 宏之 [Nakamura Hiroyuki]

1991年慶應義塾大学経済学部卒、読売新聞東京本社入社。経済部、政治部、ロンドン特派員、ハーバード大学国際問題研究所研究員、経済部デスク、調査研究本部主任研究員などを経て、2020年6月より現職。主な著書・共著に『おさえておきたい平成の経済 「令和」経済のトレンドを読む』(山川出版社)、『御社の寿命』、『地元の力を生かす「ご当地企業」』(中央公論新社)など。

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

十河 英史 [Sogoh Eiji]

1989年新日本製鐵(株)(現・日本製鉄(株))入社。本社および製鉄所において営業、人事・総務等を担当後、2017年4月より薄板営業部長、2019年4月より執行役員人事労政部長。出身地：香川県、趣味：ゴルフ・ウォーキング、愛読書：歴史小説

外務省 アジア大洋州局長

船越 健裕 [Funakoshi Takehiro]

外務省アジア大洋州局長 昭和63年外務省入省、在アメリカ合衆国日本国大使館、北米局日米安全保障条約課長、在韓国日本国大使館、国家安全保障局内閣審議官等を歴任、兵庫県出身。

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

1981年建設省入省。米国連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監、事務次官を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。2022年より内閣総理大臣補佐官として国土強靱化、社会資本整備などを担う。また、東京大学、立命館大学等の客員教授も務める。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

防衛装備庁長官

鈴木 敦夫 [Suzuki Atsuo]

1985年防衛庁入庁。米国立大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長、防衛政策局次長、統合幕僚監部総括官、政策立案総括審議官、整備計画局長、地方協力局長などを経て現職(いずれも当時の名称)。

経済産業省 通商政策局長

松尾 剛彦 [Matsuo Takehiko]

経済産業省大臣官房会計課長、資源エネルギー庁総合政策課長、電力・ガス取引監視等委員会事務局長、大臣官房審議官(通商政策局担当)、内閣府宇宙開発戦略推進事務局長等を経て、2022年から経済産業省通商政策局長。東京都出身。座右の銘は、信は万事の基をなす。

Profile

国土交通省 不動産・建設経済局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

愛媛県出身。平成元年京都大学農学部卒業。同年建設省(現 国土交通省)入省。道路局において特定財源問題、住宅局において住宅税制や都市再生機構の法人改革等に携わる。大畠国土交通大臣秘書官、不動産業課長、官房人事課長、総務課長、道路局次長、官房総括審議官を経て現職。最近の趣味は朝のウォーキング(多摩川沿い)と休日の寄席通い。

株式会社みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

遠藤 宏 [Endo Hiroshi]

1992年東京理科大学工学部卒業、同年、日本長期信用銀行入社を経て、2000年日本興業銀行(現・みずほ銀行)入社。営業部、海外駐在等を経験し、2019年東京法人営業部部長を歴任、国内外の産業調査・大企業法人営業に従事。2021年5月産業調査部部長、同年7月より現職。産業調査部では、国内外で150名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

内閣府 審議官(科学技術・イノベーション推進事務局)
筑波大学特命教授/慶應義塾大学特別招聘教授

高原 勇 [Takahara Isamu]

1988年トヨタ自動車株式会社入社。クラウン、レクサスGSなど新型車両の設計開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダー、BR-VI室長、VA開発部長を経て、筑波大学未来社会工学開発研究センター長に就任。現在は内閣府審議官として、科学技術・イノベーションを担当している。筑波大学特命教授、慶應義塾大学特別招聘教授を兼務。

筑波大学客員教授

双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

1982年日商岩井(株)、現双日(株)入社。双日(株)米国法人・経営企画部長、人事総務担当役員、アジア・大洋州総支配人、営業管掌役員などを経て2020年4月より現職。福岡県北九州市出身。海外在住は中国(北京)、米国(ニューヨーク)、シンガポールで通算12年。お酒とゴルフを嗜まない、商社マン・スタンダード逸脱モデルの人材だったが、コロナを機にゴルフに挑戦中。退任後の夢は、恵まれない子供達の教育。

筑波大学客員教授

双日(株) 常務執行役員 リテール・コンシューマーサービス本部長

村井 宏人 [Murai Hiroto]

1989年日商岩井(株)入社。双日(株)自動車第二部長、経営企画部長などを経て2016年4月より自動車本部長、2020年4月より現職。京都出身。学生時代は、中学から大学まで常に体育会水泳部に所属し水泳三昧の日々を過ごす。入社後、先進国から途上国まで50か国超を訪問。産業機械や自動車の輸出から事業会社の経営、M&Aまで様々な経験を重ねる。2020年度よりリテール・コンシューマーサービス本部長(2021年4月旧リテール・生活産業本部長から改称)に就任、より一層生活に密着したビジネスに挑戦中。

筑波大学客員教授

双日(株) 常務執行役員 人事、総務・IT業務担当本部長

橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

1990年日商岩井(株)入社。愛知県出身。入社後は物流部隊に配属され、初出張は2年目の西アフリカ。1000km超の行程を野宿しつつ輸送監督として走破。その後はロシア衛星通信網の構築、米国駐在中にはトヨタ生産方式の普及活動、2011年インフラ事業へ転身、鉄道や再生エネルギー事業に取り組んだ。環境・産業インフラ本部長、エネルギー・社会インフラ本部長、インフラ・ヘルスケア本部長を経て、2022年4月より現職。私生活では十数年ぶりに下手なゴルフを再開、人より多く歩き、走り回ること運動不足を解消中。

筑波大学客員教授

双日(株) 執行役員 広報、リスク管理担当本部長

河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

1968年生まれ、東京都出身。1990年日商岩井(株)入社。企業審査を担当後、ブラジルに駐在しリスク管理、法務を担う。双日発足後は、リスク管理部長、米国駐在(経営企画)、人事・総務部長を経て、2020年より執行役員 人事、総務・IT業務担当本部長として、人事及びIT領域の改革を推進。2022年4月より現職。また、2004年より約3年間鉄道業界に身を置き、他業界も経験している。ブラジル生まれの大学生の息子と娘。趣味は妻と週末ウォーキング。



世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

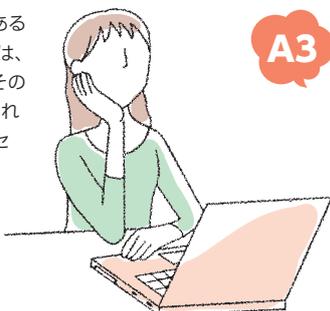
総合科目 (学士基盤科目) 春 B 社会基礎学Ⅰ 「グローバル化と 地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成 オーガナイザー 坪内 孝司 他	第1回 5/28 (土) 14:00-17:00	【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針 【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	坪内 孝司 三浦 潔司 吉村 麻央・太田 誠 三浦 潔司・坪内 孝司
	第2回 6/4 (土) 13:30-16:30	地域資本を活用した地域経営 グローバリゼーションにおける地域の活性化	石崎 晶子 坂本 広顕
	第3回 6/11 (土) 13:30-16:30	グローバル化と戦争 国際協力の考え方とグローバル人材に求められること	沢井 俊光 河西 裕之
	第4回 6/18 (土) 13:30-16:30	都市開発とエリアマネジメントの実践 ～民間デベロッパーの取組み～ モビリティ革命とMaaS(マース)	雨宮 克也 牧村 和彦
	第5回 6/25 (土) 13:30-16:30	国際経済と総合商社の活動 経済産業政策の新機軸 ～新たな産業政策への挑戦～	重吉 玄徳 佐々木 啓介
総合科目 (学士基盤科目) ～高年次向け～ 秋 AB 社会基礎学Ⅱ 「グローバル化と 地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成 オーガナイザー 坪内 孝司 他	第1回 10/8 (土) 13:30-16:30	【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	三浦 潔司 石川 貴之・平石 和昭 三浦 潔司・坪内 孝司
	第2回 10/15 (土) 13:30-16:30	経済報道と最近のトピックス 企業経営の現状・課題と戦略	中村 宏之 十河 英史
	第3回 11/12 (土) 13:30-16:30	北東アジア情勢と日本外交 未来の国土づくりを担う皆さんへ	船越 健裕 森 昌文
	第4回 11/26 (土) 13:30-16:30	日本の安全保障環境と防衛政策 転換期の日本の通商政策	鈴木 敦夫 松尾 剛彦
	第5回 12/3 (土) 13:30-16:30	【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備	長橋 和久・遠藤 宏 三浦 潔司・坪内 孝司

Q & A

Q1 「社会基礎学」とは何ですか?

A1

この講義では、国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組など様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組やその実践に至るプロセスをご紹介します。講師の方々から紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。



Q2

受講することにより どんなことが期待されますか?

A2

この講義で学んだことを基礎に、今度は受講した皆さんご自身が、社会にどのように貢献し、どのように力を磨き、そのために学生の期間をどう使えばよいのか、を考える一助にしてほしい、と期待しています。学生の皆さんにはこの講義で最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉えることで、人間力、汎用力、広い視野を持ったグローバル人材としての能力を身につけてほしいと思います。

Q3

学士基盤科目って1科目だけ 受けておけばいいんですよね?

A3

確かに、総合科目のなかで学士基盤科目と設定される科目から1単位以上取得することが全学共通の卒業要件になっていますが、これは必要最小限の数にとらえていただきたいのです。この要件に関係なく、知見を広げるために興味のもてる科目の受講を歓迎します。本学の特長である総合智教育のなかで、汎用性をなす科目群としてこの学士基盤科目も設定しています。自分の専門領域にとどまらず、その領域の外からの視点でのものの見方にも触れることで、知識の裾野を広げ、「複眼的」「俯瞰的」な視座をもってほしいと願っています。このような視座は「創造的問題解決」をしてゆく力の源泉となると考えられるからです。

世界に挑む産業界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース

春BC 次世代モビリティの マーケットデザインと 計算科学 担当教員 高原 勇	第1回 6/8 (水) 13:00-	モビリティノバーションの社会応用	高原 勇
	第2回 6/22 (水) 13:00-	スマートシティとエマージングテクノロジー	高原 勇 他
	第3回 7/6 (水) 13:00-	次世代モビリティのマーケットデザインと計算科学によるデザインと未来社会像	高原 勇 他
秋AB 多極化する世界と これからの日本 担当教員 平井 龍太郎	第1回 10/19 (水) 13:00-17:30	【アイスブレイク】 自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話 講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動（第一部）」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第2回 11/16 (水) 13:00-17:30	講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動（第二部）」と全員参加による議論 【パネルディスカッション】 テーマ①：グローバルビジネスにおける日本企業の競争力の変遷と課題 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論	平井 龍太郎 村井 宏人
	第3回 12/7 (水) 13:00-17:30	【パネルディスカッション】 テーマ②：「商社におけるリスクマネジメントの変遷」 【パネルディスカッション】 テーマ③：「これからの商社の人材戦略」 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論 【ラップアップ・セッション】	平井 龍太郎 河西 敏章 橋本政和



Q4 秋の講義は春の講義を受けた人でないと受けられませんか？

A4 それぞれ独立した科目なので、どちらかだけでも受講することができます。また、春学期の講義内容が、秋学期講義の前提知識として求められることはありません。



Q6 授業の雰囲気はどのような感じですか？

A6 講義の回は、各講師の話聞いた後、質疑応答の時間があります。また、パネルディスカッションを行う回では、会場からの質問や意見をもとにパネリストがそれぞれの立場から発言し、議論が展開されます。皆さんの声が講義に反映されますので、積極的な発言を期待します。更に、授業後は講師に個別に質問することもでき、質問待ちの行列ができることもあります。

Q5 1年生ですが、秋の高年次向け講義を受けてもいいですか？

A5 履修登録上の制限はありませんので受講可能です。社会基礎学Iでの学びで、広範な知識を得て、考え方の基礎となる種が植えられる、としましょう。本学での様々な科目の受講は、たとえそれらが専門智の涵養を目的としたものであっても、その種から発芽した若木を育てる養分となるかもしれません。また、将来の就職のための業界研究やインターンシップに参加すると、もっと社会に直結した経験が得られ、同様に養分になることでしょう。例えば3年次に社会基礎学IIを履修すると、そのような養分を得て立派に育ちつつある若木をさらに大きく育てることになり、すなわち学びが深まることを期待しています。そのような期待をもって、この社会基礎学IIを高年次向けと称しています。

Q7 「大学院アドバンストディスカッションコース」はどのようなものですか？

A7 大学院共通科目として2科目開講されていますが、いずれも10～15名程度の少人数のディスカッションコースです。産業界のトップリーダーと直接対話できることもこの講義の特長ですが、様々な分野の学生が集まって濃密な議論が行われることも大きなポイントです。講義の事前・事後課題や提示される課題図書、統計資料を読み込み、論点を整理し、授業に臨むことで大いに学びが得られます。

- 総合科目(学士基盤科目) 社会基礎学Iに関わるQ&A
- 総合科目(学士基盤科目) 社会基礎学IIに関わるQ&A
- 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースに関わるQ&A



受 講 案 内
2022

筑波大学 × 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)

